

なければならない。家政学のような広い範囲の未開拓の分野の多い学問では仮設は非常に大きな意義をもつ。

D-19 家政学における仮設の意義

県立新潟女子短大 柳原 文一

1. 家政学の研究方法において、実証的方法のみでなく仮設の重要性を明らかにしようとする。

2. 思索・論理の方法による。

3. (1) 仮設の重要性、現代の学問の研究には実証的方法のみが重んじられ、仮設が非常に軽視されている。一般に、仮設→実証→法則（原理）の過程がとられるが、仮設を省略して差支えないであろうか。法則は無数の経験的事実の中からそれらに共通の原理を抽象して成立するものである。この抽象化の過程は仮設を用いなければならぬ。仮設は平たくいえば見当をつけることである。落とし物をした場合どこに入れておいたのか、どこらへんで、いつ頃、何かした時……という記憶をたどって見当をつけずに探し物をするのは、それこそ“五里霧中”である。古来重要な科学上の法則は、ほとんど皆すぐれた仮設が先に出されて、それが後になって実験的に証明されたものである。仮設は分野の（殊に未開拓の）広い学問程重要な役割をもつ。

(2) 仮設の条件、仮設は空想ではない。これまでの科学上の業績に通じ、その上に学問のルールに沿って立てられねばならない。科学が種々の方面で進歩するにつれて、仮設の自由に働く範囲は狭くなる。仮設は過去、現在および将来の事実を最も矛盾少なく説明しうるもので